

2019年度 良心館ラーニング・コモンズ 活動報告書

学習支援・教育開発センター 助教 矢内真理子

要約

本報告は、2019年度の今出川校地の良心館ラーニング・コモンズにおける学習支援・教育開発センター（以下、「センター」という。）の活動を総括したものである。中核サービスである学習相談をはじめ、アカデミックスキルセミナー等について報告する。

1. はじめに

本報告では、今出川校地の良心館ラーニング・コモンズの中核となるサービスである学習相談をはじめ、アカデミックスキルセミナーの開催実績について、商学部との連携も踏まえつつ報告する。

2019年度は新型コロナウイルス感染症の影響によって、大学の指示のもと、2020年3月3日以降、施設内の飲食を全面禁止としたほか、定期的な換気を行いながら運用を続けてきた。3月20日以降はラーニング・コモンズを閉室し、ラーニング・コモンズにまつわるサービスも一部を除いて運用を見合わせた。この報告書を書いている段階では先が見えない状況が続いているが、一刻も早い収束と、施設の運用再開ができることを願っている。

2. 学習相談

2-1. 学習相談環境の変化

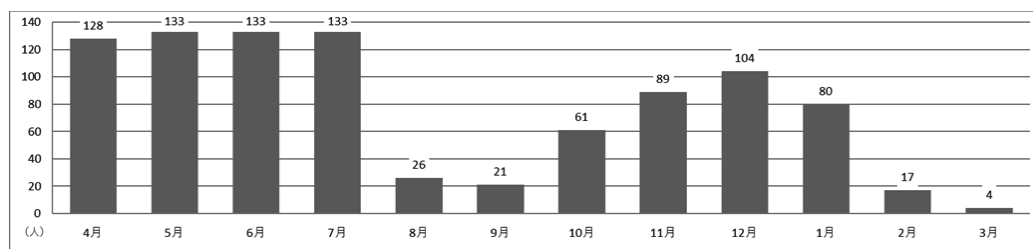
2019年度はアカデミックサポートエリア（以下、「ASA」という。）の開室時間の変更に伴い、ラーニング・アシスタント（以下、「LA」という。）のシフト形態を変更した。

これまでは2人が1組となり、2時間おきに入れ替わり対応する形としていたが、シフトの時間をずらし、3人で対応する時間帯を設けることにした。これによって、従来は業務上関わるLAは各シフトにつき1人だけであったが、今年度より2人～3人となり、より多くのLAと業務にあたる機会が増え、情報交換や申し送りなどがスムーズになったのではないと思われる。2019年度のLAは9人で、汎用的なアカデミックスキルだけでなく、それぞれの専門分野に特化した相談にも対応した。

2-2. 学習相談の記録より

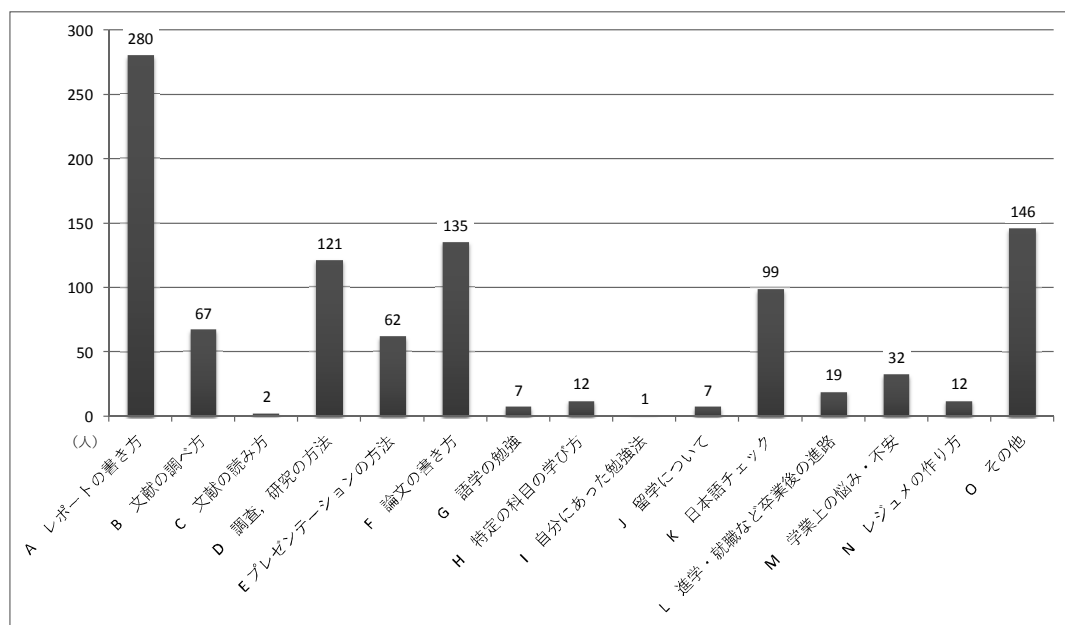
2019年度の学習相談（2019年4月1日～2020年3月19日）における相談者の延べ人数は929人（表1）である。昨年度の相談者数は延べ878人のため、51人増加した。例年の傾向としては期末レポート・期末試験がある7月、卒業論文のメ切がある12月に相談者が多くなるが、今年度は4月から7月まではほぼ同数の相談件数となり、横ばい傾向が見られた。考えられる要因としては、第一に2019年度生に入学時に配布した資料の中に、学習相談のチラシを入れたこと（2018年度までは配布していなかった）、第二に後述するパソコン操作や学内の学修支援システムにまつわる質問が多くを占めたことによるものではないかと推測される。

表1 2019年度月別の延べ相談者数



相談の内容別の集計は1002件（表2）である。この分類は、1人の相談でも複数の質問があったり、複数の性質を帯びていたりする場合、複数の事柄について相談があったと記録に残すため、延べ人数より多くなることを付記しておきたい。表2によれば最も多かった相談は「レポートの書き方」についてであり、次いで「その他」、「論文の書き方」となった。相談内容を詳述すると、「レポートの書き方」については、1年生が初めてレポートを書く際に、レポートとはそもそもどのようなものなのか、書き方がわからないという書く前の段階の相談もあれば、ひととおり書いた後に形式の確認を求めるものもあった。書いた後の多くの相談で、引用・脚注・出典・参考文献の記載の仕方に関する助言を行った。

表2 学習相談の相談内容内訳



「その他」については、本学の学修支援システム「DUET」、「e-class」、本学の印刷システム「DoKoDeMoプリント」の操作方法にまつわるものが中心となった。他にもOffice365、Word、Excel、Outlookなどの操作に関する質問も寄せられた。この傾向は昨年度までには見られないものである。この傾向について、2019年度生がパソコンの操作の習熟度が高くない、と結論付けることは安直だと考える。全学的に授業で「DUET」「e-class」を利用する頻度が増えている可能性もあり、多角的な事実から要因について検討する必要があると考えられる。また、ラーニング・コモンズ内には情報教室補助員（学生スタッフ、通称赤ジャン）も勤務しており、センターの教員とLAは、彼・彼女らともゆるやかに連携している。

「論文の書き方」については、特に学部3年生以上と大学院生からの相談となっている。卒業論文に関する相談が大半であり、修士論文・博士論文に関するものも割合として多くはないがあった。テーマの決め方、調査の方法、文献・データの調べ方など、より専門的な内容に関する相談が中心となった。

2-3. LAによる学修支援環境の整備

LAは学習相談以外にも、相談をスムーズに行うための様々な取り組みを実践している。例えば相談時に用いる説明資料として、レポートの書き方や出典の記載の仕方

を簡潔に示した「Learning Tips」を作成した。他にもラーニング・コモンズの広報誌である「Commons Press」(2019年度は4月、9月の2回発行)を執筆、編集、発行し、学習相談をより身近に感じてもらうための工夫を続けている。

3. アカデミックスキルセミナー

3-1. アカデミックスキルセミナーの概要

2019年度もアカデミックスキルセミナーを実施した。春学期は4月15日から7月11日にかけて、延べ36回実施した。秋学期は10月16日から1月22日にかけて、延べ32回実施した。参加者は延べ771人で、2013年からの実施以来過去最高となった。表3に春学期のアカデミックスキルセミナー開催講座一覧を示す。

表3 2019年度春学期アカデミックスキルセミナー講座一覧
アカデミックスキルセミナーポスターをもとに筆者が作成

| 番号 | 分数 | 講座名 | 内容紹介 |
|----|-------|--------------|---|
| 1 | 30 | レポートの構成法 | レポートとはどのようなものなのか。レポートを書く際、最低限知っておくべき基本を学びます。 |
| 2 | 30/90 | 引用の方法 | なぜ引用するのか、どんな引用形式があるのか「コピペ」と言われないレポートのルールを学びます。 |
| 3 | 30/90 | 伝わる文章の書き方 | どうすれば伝わる文章が書けるか、レクチャーと実習を通して学びます。 |
| 4 | 30 | ノートの取り方 | 眺みながらとる、読みながらとる。高校までとは違う、大学でのノートの取り方、まとめ方のコツを学びます。 |
| 5 | 30 | メールの書き方 | 教員に送る。調査先にアポイントメントをとる。その際、失礼にならない電子メールの書き方を学びます。 |
| 6 | 30/90 | プレゼンの方法 | 伝わるプレゼンの作り方・話し方等、事例を元にして学びます。 |
| 7 | 90 | 学術文献の読み方 | 「論文」って何?一般の書籍とはどう違うの?学術文献をどのように読めばいいの、レクチャーと実習を通して学びます。 |
| 8 | 90 | レジュメの作り方 | 授業やゼミの発表に欠かせないレジュメ。レジュメ作成のポイント、レクチャーと実習を通して学びます。 |
| 9 | 90 | ポスターの作り方 | 身近なツールを利用し、ポスター発表等で必要となるコツや技をサンプルを交えて学びます。 |
| 10 | 30/90 | 情報探索の方法 | 調べ方の見当もつかないものをどう調べるか。大学で必要な情報探索法を学びます。 |
| 11 | 30 | 図表の見方・作り方 | グラフにはどのような意味があるのか。その使い方や図表内の数値の見方、作図・作表の方法を学びます。 |
| 12 | 90 | アイデアの拡張法 | マインドマップと検索エンジンを使い、レポート・論文作成に役立つアイデア出しの方法を学びます。 |
| 13 | 90 | グループでのアイデア出し | 多くのアイデアを出す方法、またそれらの絞り方についてレクチャーと実習を通して学びます。(受講者が3名以上必要) |
| 14 | 90 | 聞き取りの方法 | インタビュー調査のアポイントの取り方、質問項目の作り方、調査時のマナーをお伝えします。 |
| 15 | 30 | 卒論の書き方 | 卒論の提出を控えた4年生向けに、その時期にすべきことをお伝えします。1~3年生も、もちろんOK。 |

2019年度春学期は全部で15の講座をもうけ、内容によって90分のクラスと30分のクラスに分けた。事前予約制とし、定員は30人とした。講座によっては両方を実施したものもある。秋学期には初めての試みとして、留学生向けに「留学生のためのレポート構成法」を、数学を扱った「統計 基礎の基礎」、「やりなおし数学」を開講した。アカデミックスキルセミナーは2013年度以来継続して実施している。当初、アカデミックスキルセミナーに参加した学生がASAに親しみ、学習相談を利用してもらえればという狙いがあった。今年度もその点については変わらず、アカデミックスキルセミナーで聞いた内容を実践するにあたり、不明な点、困った点があれば学習相談を利用してほしい旨を講師から受講生にアナウンスした。決して数としては多くはないが、アカ

デミックスキルセミナー受講生が学習相談を利用する流れもあった。アカデミックスキルセミナー参加者にはアンケートを実施し、満足度やニーズをくみ取る指標とした。アンケートによると全体の講座数をさらに増やしてほしい、レポートの書き方・ノートを取り方など特定のアカデミックスキルセミナーの講座数を増やしてほしいなどの要望があった。

3-2. 商学部の中年次教育科目との連携

今年度も春学期に商学部の中年次教育科目との連携を行った。「アカデミック・リテラシーⅠ」（春学期開講、以下「アカリテ」という。）では、アカデミックスキルセミナーの参加者が所定の様式に従いレポートを作成し、アカリテ内で提出することにより、90分クラス1回の参加で10点（20点までを上限）、30分クラス1回の参加で5点（10点までを上限）、が成績評価に加算された¹⁾。また、7月・11月・2月にセンターの教員から、商学部の導入科目委員会の教員に対して、アカデミックスキルセミナー・学習相談の商学部生の利用状況を報告した。

4. 今後の展望と課題

あくまでも筆者の個人的な見解であるが、現時点で考えられる学習支援の課題は、第一に学習支援と学部連携の可能性について、第二に学習相談を通して得られた学習傾向や学内サービスへのありようについての還元の二点についてである。

第一の学部連携の可能性について、同志社のASAに類する学内の学習に関する相談サービスは多くの大学で見られるが、そのあり方や運用の仕方は、大学の運営方針や風土によってそれぞれ異なり、その中で模索していくものである。当センターにおいてはこれまで、先述の商学部との連携が2015年度以来継続しているが、基本的には学部依存しない独立したサービスとして運用が続けられてきた。学部連携の可能性については、マンパワーの問題から、一度に対応できる人数に限りがあるものの、今後も運営者の課題として検討し続ける必要がある。学習相談はクリアしなければならない数値目標は設定されていないが、個人的にはさらに多くの需要があるはずと考えており、多くの学生に利用してもらえるよう工夫を続けたい。

第二に学習相談を通して得られた事柄について学内に還元できればと考えている。例えば年度ごとの比較によって、学生の学習傾向やつまづくポイントなどが異なっており、それが学部教育・大学が提供しているサービスのありようと関係しているので

はと推測されるためである。学内の会議体などで情報提供を続けているが、他の何らかの形で発信できないか。たとえば学習相談では留学生の書いたレポートなどの日本語に関する相談が毎年一定数寄せられている。大学内には留学生に向けた科目の開講や、大学院に在籍する留学生に向けた外国人留学生学習・研究支援チューターなどの仕組みはあるが、より日本語について細かい質問ができる場所・サービスが学内にないことが、学習相談という場で顕在化しているものとみられる（決して学習相談において日本語に関する相談に対応することが問題であるとは考えていない）。学習相談では、就職活動に関することはキャリアセンター、学習にとどまらない学生生活の不安についてなどはカウンセリングセンターなど、該当する相談窓口がある場合は紹介することがある。だが基本的にライティングセンターではないため、「勉強」「学習」と関係する相談は基本的になんでもまずは話を聞くという「よろず屋」としての性格を持っており、それが本学の学習相談サービスの特色であると言える。上記に加えて当センターは学部には属していないこと、また学習相談に応じる中心的な存在であるLAが教員と学生の間位置することからも、同志社における学習支援はマージナルマン（境界上）的であるところにその面白さがあり、開設から7年が経過してもなお進化し続けられるものと考えている。

付記

本稿で使用したデータは、同志社大学学習支援・教育開発センターの許可を得て使用した。

注

- 1) 同志社大学商学部(2019)『「図書館講習会」「アカデミックスキルセミナー」「チャペル・アワー」「障がい学生支援講座」受講レポート執筆要項』より